

1. 今こそ、キャッシュ（現金）を強く意識しよう

会社の財務諸表は2つに大別されます。一定期間（通常は1年）の経営成績を示す損益計算書（PL）とある時点（通常は決算期）での財政状態を示す貸借対照表（BS）の2つです。会社の決算ではPLを基礎に経営の優勝劣敗を語るのが一般的です。余談ですが、国力を示すGDP（一定期間の生産や消費・投資、分配を計る指標）もPLと同義語と言えそうです。

ところで**PLの最終着地点である「税引後利益」は「獲得した架空の現金」を意味**しています。利益と現金とが必ずしも一致しないことを表わす言葉として**「勘定合って銭足らず」**があります。「利益は出ているのにお金がない！」と悩む経営者には、この格言が真実として立ち塞がっています。

COVID-19の影響により暗中模索の中で企業は活動しています。どの様な策を講じるべきかを経営者は悩み実行しています。「大胆な投資をすべきか」「働き方をテレワーク（リモワーク）へ転換すべきか」「社員の採用を手控えるべきか」等々、苦悩はすれども解決策が直ぐに見つかるとは限りません。但し1つだけは確実に言えます。それは**「会社存続に十分な現金を確保できるか否か」を価値基準において、経営意思決定を行う**ということです。

「大胆な投資をすべきか」を例にこの命題を解いてみます。過去の成功体験によれば、同業他社が躊躇している時に設備投資をし、生産性を高めて原価低減し、良質な商品の供給体制を整えた会社が勝ち残っています。この設備投資により市場から高い評価を得ることができ、市場占有率を大きく伸ばしています。この戦略を採った例として宮城県に拠点を置くアイリスオーヤマがあります。2011年3月の東日本大震災により省エネ需要が拡大するとしてLED照明を増産しました。その結果後発だった当社はシェアNo1の地位を獲得したのです。今年、アイリスが取った策はマスクの大増産（日本製）です。当社が機動的かつ大胆な戦略を採り得るのは、工場稼働率が7割を維持しかつ利益が出る生産体制を確立しているからです。

賢沢なキャッシュを保有していることも大きいのです。大胆な増産が出来るのは**流動性に不安がない**こと、そして投資結果が**市場に受け入れられるという自信と読み、最後に投資額以上の現金リターンが見込めるという緻密な計算**があったのです。

2. きつい時ほど、ポジティブに書き出し残す

「ハーバードの人生を変える授業」（タ・ベン・シヤー著）という本があります。私は少し前に読みましたが、そのダイジェスト版に目を通しました。

「幸せはどうすれば得られるか？」の問いに幾つかのアクションを著者は示しています。その1つが**「いいところを探す」**だと指摘しています。

人生における客観的な出来事に対する受け止め方が、自分の幸福感に影響を与えるのです。ある出来事を捉える“主観的な心の働き”が「自分は幸福である」と思い込みを与えてくれるのです。

そこで私から提案です。COVID-19に苦しむこの時期だからこそ、一日の締め括りとして日記を書いてみませんか。大学ノートでも良いです。書くことは「今日あった良かったこと」です。1つでも可です。悪かったこと、ネガティブな発言、消極的な判断・行動は書き残しません。綴られる内容は心を落ち着かせ、嬉しさが込みあげるものとしします。

仮に挫折した事実があったとしても、「その経験からこれを学んだ」と陽転思考で書けば良いのです。**一日をポジティブで考えとして終わる習慣が身に着けば人生は必ず好転**します。私はこの習慣を長年続けてきました。是非お試し下さい。

3. ウイルスや自然災害と共に生きる

東京都のCOVID-19の新規感染者が連日100名前後の日々が続いています。県をまたぐ移動制限が終わり、首都圏の市民が全国各地へ移動し始めました。地方では再び新規感染者が増加傾向にあります。第2・3波への警戒を緩めてはいけません。

政府や各自治体の長は、「これ以上、経済活動が停滞してはまずい」と経済活動を優先する余り、緊急事態宣言の再発出はせず、「3密防止への協力を」と自粛要請を繰り返すのみです。

この一連の流れは**日本人の国民性**がよく表れています。「お上を信用してその指示に従う」という**従順性**。「喉元過ぎれば熱さ忘れる」という**自然観**。「きっと終息するだろう」という**淡い期待感**等々。

有史以来何度も疫病や大水害等の自然災害に見舞われてきた日本。私達はこれまで以上に「With(ウィズ)-〇〇〇」という意識を持つことがとても重要です。「**勝つ**」ではなく「**克つ**」を心に留めたいと思います。「**克つ(克己心ではなく克災害)**」が**災害大国である日本で生きていく心構え**となりそうです。